



柴田勝家

時間 平日の午前9時～午後5時
問合先 同協議会 ☎08443

人は気軽に問い合わせてください。
場所 兼山生き生きプラザ(兼山67
4番地1)

可児市山城連絡協議会は、市内で城跡の整備活動を進めている団体が平成28年4月に立ち上げた組織です。山城に関する情報発信の拠点であり、城跡のPR活動やイベントの企画運営を行っています。事務局は美濃金山城跡の麓にあり、山城に興味のある人が情報収集に訪れたり、地域の人が立ち寄りやすいように、交流の場となっています。

地域の拠点・山城連絡協議会



仙石秀久

戦国時代、可児市では地理的条件から多くの山城が築かれました。今でも10カ所の城跡が残っています。山城とは、山を利用して築かれた城です。戦国時代までの城のほとんどは山城でした。山を切り盛りして兵士の居場所を作ったり、尾根筋を断ち切って敵の侵入を防ぐなど、純粋な防衛施設としての役割を果たしていました。天守や長く暮らすための施設はありませんが、地形を利用した敵を食い止めるための仕掛けなどが作られており、いくつもの城跡では今もその様子を見ることが出来ます。

山城のまち、可児

10月21日(土)～23日(月)に開催するイベント、山城に行こう!2017。今回は人気漫画「センゴク」の作者・宮下英樹さんが登場します。山城に関する事業や城跡を守る人々たちを、センゴクの登場人物と一緒に紹介します。

山城に行こう!2017〜センゴクの城〜

可児市山城攻略図



美濃金山城おまもりたい

すばらしい城跡があることを地元の人にも知ってほしいという気持ちから、整備活動を始めました。他にも城跡やまちのガイド、兼山郷土かるた大会の読み手など、郷土に興味を持つきっかけづくりを進めています。

主な活動
城跡の整備
ガイドボランティア
兼山の魅力を発信



久々利城跡城守隊 (4ページに掲載)

今城址を整備する会

自分たちが子どもの頃に親しんだ山城を、地域の子どもたちにも楽しんでもらおうと整備活動を始めました。企業の支援も受けながら活動しています。子どもが気軽に登れることを大切に考え、手すりやロープも設置している他、芋煮など地域の人が集う催しも行っています。

主な活動
城跡の整備



山城を巡ろう

山城に行こう!2017では、市内の山城を訪ね、各地のボランティアによるガイドなどのおもてなしを受ける企画を行います。1つの城跡にゆっくり滞在するのも、複数の城跡を訪ねるのも、自由に決められます。

また当日は市役所と各城跡を結ぶ無料のシャトルバスも運行します。事前の申し込みは必要ありません。詳しくは山城連絡協議会までお問い合わせください。

期日 10月21日(土)
見学時間 午前9時30分～午後3時
会場 美濃金山城跡、今城跡、大森城跡、久々利城跡

※ガイドなどを希望する人は、山城連絡協議会の運営協力金として500円(以上)をお願いします。
シャトルバスの運行時間と乗車場所
時間 午前9時～午後3時
乗車場所 市役所、美濃金山城跡、今城跡、大森城跡、久々利城跡



観光は
デザイン
で
まち

観光ブランドデザイン

市は地方創生の重要な柱として、平成28年3月に可児市観光ブランドデザインを策定しました。美濃桃山陶の聖地や戦国城跡巡りなどのテーマに合わせた事業を展開しています。

この観光ブランドデザインは、地域の住民、団体、企業などと協働で進めることが特徴となっています。地域の資源に慣れ親しんできた人たちが市政に参画し主体的に関わることで、地域の魅力を次の世代にしっかりと伝えることができると思っています。

山城に関する取り組みもその一つです。まちの元気・活性化につなげ、にぎわいを創り出すために、国史跡・美濃金山城跡をはじめ、市内の城跡を観光交流資源として生かしていくこととする事業です。



石田三成

等身大ポップがお出迎え パネル展示「センゴク」名場面集

会場内ブースでは、センゴクのキャラクター等身大ポップが出迎えます。

またセンゴクの中で、可児市にゆかりのある武将が登場する場面などをパネル展示します。

可児市オリジナル グッズ販売

宮下英樹さんがデザインしたオリジナルグッズを販売。このイベントでしか手に入らない商品が並びます。サイン入りコミックスの注文販売もしています。



パンフを手 会場に駆けつけよう

主会場の広見公民館ゆとりピアの見取り図や、3日間の開催内容は特製パンフレットで詳しく紹介しています。パンフレットは市ホームページでダウンロードできます。



羽柴秀吉



「センゴク」とは

現在の坂祝町黒岩の出身とされる仙石権兵衛秀久を主役とした漫画で、週刊ヤングマガジンで2004年から連載。第1部～3部で計45巻を刊行。現在は第4部「センゴク権兵衛」を連載中。累計発行部数は750万部を超える。

今回のイベントでは、センゴクのキャラクターや場面を使うということで、皆さまがお城の魅力に触れるきっかけになればと考えています。私自身も新たな側面からお城の魅力を見たいと思います。

一緒に記念写真は
どうだい？



黒田官兵衛

トークイベント 「センゴクの城を語る」

中井均さん(滋賀県立大学教授)と加藤理文さん(日本城郭協会理事)、落語家の春風亭昇太さんに加え、漫画家・宮下英樹さんも参加。

城の仕掛けがどのような役割を果たしたのか、また可児市の戦国時代を語る上で重要な小牧長久手の戦いについても、センゴクの名場面とともに紹介します。



(左から)加藤さん、昇太さん、中井さん

山城に行こう！2017から、漫画「センゴク」に関連するイベントを紹介していきます。



可児市の皆さま、はじめまして。センゴクの作者、宮下英樹です。

私は軍事拠点としてのお城の見方を人から教えてもらい、初めてお城を面白く感じました。城を守る立場で城跡に立つと、生きるための必死さを感じる事ができます。最近では経済的な場との関係に興味があります。このようにお城の魅力というのは、いろんな側面があると感じています。

今回のイベントでは、センゴクのキャラクターや場面を使うということ

山城を守る人々

地域の宝である山城の整備には、地域の団体、企業も一緒に取り組んでいます。今回は久々利城跡城守隊と(株)日特スパークテック東濃を紹介しします。

現代の侍、城跡を守る
皆さんを紹介するぞ



久々利城跡城守隊の皆さん

山城を次世代に継承したい

久々利城跡城守隊は、地元の城跡を次の世代に残すという気持ちの人が集まって活動しています。

久々利城跡のような規模の大きな山城は珍しく、私たちも子どもの頃から親しみ、遊んでいました。建物としての城は残っていませんが、戦国時代から代々地域の人が守ってきたことに意味があり、山城に誇りを持ってもらえれば、地元を大切にしたいという思いが続いて

いくと思います。まずは地元の人に興味を持ってもらって、もう一度地域のシンボルとして復活させたいです。そして久々利から他の地域にも発信しようと考えています。

目指すのは、子どもたちが地元に誇りを持ってくれることです。観光地にすることよりも、今あるものを大事にして、足を運んでくれる人がほっとできる場所になればと思います。

久々利城跡城守隊

この地に残る歴史のある城跡をきれいに整備していきたいという声が上がって、地域住民で結成しました。伐採した竹を使って城への道の整備などを行い、資源の有効活用にも役立っています。

主な活動 竹林の伐採、除草作業
城への道の整備
案内板の設置



昨年10月に行った、城攻め体験の様子



整備活動の様子

市内には城跡の整備活動に協力いただいている企業がいくつかあります。(株)日特スパークテック東濃もその一つで、大森城跡(市指定文化財)の整備活動を行っています。清掃活動や草刈りを行い、今後も年間2回の整備活動への参加を予定しています。地域とのつながりを大切にし、継続的に地域貢献に努めています。

企業も活躍



徳川家康